

令和5年7月18日

一関信用金庫

【地元産学連携を支援】**電気自動車（EV）の走行実証実験事業を開始します**

一関信用金庫（理事長 菅原 一由）は、一関市に開発拠点およびメイン工場を設けている株式会社村上商会（本社・東京都目黒区、村上 竜也 社長）と一関工業高等専門学校（荒木 信夫 校長）が産学連携で研究開発した電気自動車（EV）を用いた走行実証実験事業を開始します。

本事業では、村上商会から「Xcentric-EV（エキセントリックEV）」のType-PV1の提供を受け、当金庫山目支店にて営業車両として使用し、データを同社に提供します。事業期間は今月から約2年間で予定しており、事業開始に先立ち納車式を執り行いました。

当金庫では、今後も事業活動を通じて「持続可能な社会の実現」を目指し、SDGsの達成に貢献してまいります。

※「Xcentric-EV（エキセントリックEV）」の詳細や株式会社村上商会のご紹介は、次ページをご覧ください。

<納車式の様子>

（左）一関信用金庫 理事長 菅原 一由

（中）株式会社村上商会 アドバンス事業部長 高橋 正憲 様

（右）株式会社村上商会 技術アドバイザー兼開発者 甲斐 健 様



菅原理事長を乗せてデモ走行を行いました

<「Xcentric-EV（エキセントリックEV）」とは？>

カーボンニュートラルの取組が進められるなか、村上商会と一関高専は産学連携で、「充電ストレスからの解放」および「真のカーボンニュートラル」をコンセプトとした「無給電EV」の実現を可能とする「EVコンバージョンキット」を研究開発しました。

「Xcentric-EV（エキセントリックEV）」と名付けられたこのキットは、太陽光発電と自走発電という異なる環境発電媒体の発電モジュールを使用し、多様化する自動車や二輪車の利用方法、市街地利用を想定した近距離（50～100km）での無給電走行を実現させるものです。

今回の実証実験で使用する（Type-PV1）は、PV（太陽電池）で発電した電気をEVへ送ることで走行用の電気をまかなうことができ、電気を「つくる」「ためる」「つかう」の循環がなされ、CO₂排出ゼロの効果が生まれます。これらの技術を活用することで、将来的に充電レスでの走行環境を目指します。

<株式会社村上商会のご紹介>

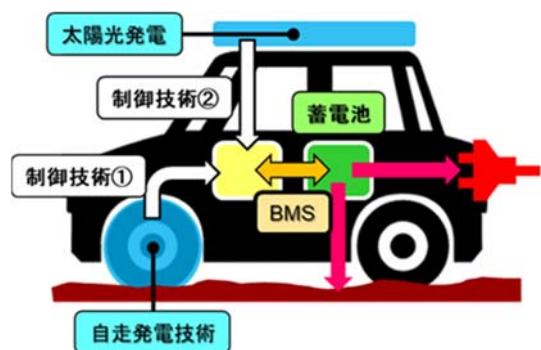
自動車業界のカロッツェリア（carrozzeria：イタリア語で車体をデザイン・製造する業者の意）です。

- ・コンセプト車両、EV車両、カスタマイズ車両などの開発と製作
- ・メーカー純正エアロパーツなどの設計と提案
- ・回転翼機のオリジナルパーツの開発から生産までを行っています。

平成28年からは福島高専で実施している「いわきEVアカデミー事業」にも協力しています。

<Xcentric-EV（エキセントリックEV）>

イメージ図



※BMS = バッテリーマネジメントシステム

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



<本件に係るお問合せ先>

一関信用金庫 総合企画部経営企画課

電話 0191-23-6111（代表）

※当金庫本支店窓口でもお受けいたします。



そすためき 有華©